

第1回福井県嶺南地域公共交通活性化協議会 議事録

日 時：平成30年6月11日（月）13:30～

場 所：リブラ若狭 2階 講堂

1 開 会

2 あいさつ

- ・福井県総合政策部 龍田企画幹
- ・川本会長

3 議 事

（1）平成30年度事業計画（案）および収支予算（案）について

- ・事務局より資料説明
- ・異議なし、原案の通り承認

（2）福井県嶺南地域公共交通活性化協議会財務規程（案）について

- ・事務局より資料説明
- ・異議なし、原案の通り承認

（3）網計画策定に向けた今後の進め方について

- ・事務局より資料説明

（質疑応答・意見交換）

川本会長

- ・資料説明で紹介があったように全国で取り組まれている例も参考に進めていく必要がある。今後、当地域のことをしっかり盛り込んだ計画にしていければと思う。まずは市町のまちづくりが重要であり、各市町での会議等で検討もされていると思われるため、説明のあった話等を含め、まちづくりの取り組み案や、地域の移動手段について、現在考えていることや動向などを、情報共有という主旨でご紹介頂きたい。

敦賀市ふるさと創生課

- ・敦賀市は新幹線開業時の終着駅となるということで、嶺南地域にいかに広げていくかを考えており、その際、二次交通が大事である。敦賀市として取り組んでいることは、敦賀駅内に案内ブースをつくって嶺南地域に波及させていくことである。JR様と協議をさせて頂きながら検討させて頂きたい。
- ・広域的な取り組みについては、市町にわたる縦断バスを実施できないかという意見もある。嶺南地域を縦断していくようなバス、小浜線と並走するようなバス、コミバス

が実現できないかと考えている。水素バスについても、観光客へのPRになると考えており、敦賀市としても取り組んでいきたい。

- ・JR様の協力を頂いてICOCAが導入されるが、ICカードをバスにも導入できるとよいと考えている。ただし導入費用がかかるため県等の協力も得たい。

小浜市北陸新幹線・総合交通推進室

- ・公共交通に対して小浜市も課題が多い。特に、少子高齢化で利用客が減少している。小浜線も定期利用者がほとんどで、定期外は1～2割であり、観光客の足として活用されていない。公共交通の重要性、必要性はわかっているが、バス路線は、運営収支が悪い状況であり、運行経費1億円に対して1割程度の収入しかない状況にある。こうした問題があるなか、課題として、高齢者・交通弱者の自由な移動手段の確保が必要である。一般市民、観光客の多様なニーズへの対応、かつ収支バランスのよい効率的な公共交通が必要であり、さらに広域的な連携も必要である。
- ・デマンドタクシーもドアツードアの手段として必要である一方、年間の経費が、1人当たり3,000円ほどかかっている。路線バスの経費は1人当たり1,200円くらいであり、デマンドはその3倍くらいかかってしまう。デマンドが良いといっても、これ以上の負担は難しい状況にあり、デマンドにするなら効率的な運営が出来ないかと考えている。
- ・生活支援バスについて、地域内で自ら運営するようなバスも必要かと思うが、継続性の問題がある。持続可能であるかどうかの問題であり、地域の有志で運転者の対応をすとしても、運転者の高齢化という問題が生じる。
- ・観光面では、当面の間は敦賀市が玄関口となり、観光ブースを設けるということであるが、観光ブースを設けただけで良いのかという課題もある。木古内と飯山へ視察に行ったが、その例では、広域な地域が連携して一つの法人を作り、一括運営されていた。観光ブースは良いと思うが、プロデュース、マネジメントを誰がするのかという点が課題である。やはり嶺南地域、そして県を超えた枠組みでの法人化が必要とも思える。木古内は、木古内町だけで行っているが、広域のPRをしながら、木古内から道南への周遊をプロデュース、計画されていた。観光コンシェルジュがいて、窓口にレンタカー会社も併設されている。広域で取り組むためには何らかの組織が必要と考えられる。

美浜町企画政策課

- ・住民に対するバス、観光のためのバスの両方を考えていかなければならない。小浜線は学生、老人の定期利用がほとんどである。コミバスも定期便と予約便の運行があるが、きめ細かく回ると所要時間がかかるなど問題がある。今後どうしていくか、小浜線とコミバスの繋がりを良くするようなことを考えなければならない。
- ・美浜駅にはレンタサイクルを置いており、レンタサイクルやタクシーの利用方法を示

していくしかない状況ではあるが、今後どうしていくかは検討が必要である。観光客への対応は、レインボーラインや三方五湖への周遊バスなどの検討もしていく必要があり、連携してやっていければと思う。

美浜町住民環境課

- ・コミバスは、高校生や高齢者の利用が多く、美浜町の西側の方向へ各路線で向かうようになっている。同じ方向に行く路線が同じ時間に行くこともあり競合する場合もある。高校生については親の送迎も多く、高齢者は自分で運転し、家族の送迎もあるという調査結果もある。
- ・美浜駅の前に道の駅を整備する予定であるが、駅を中心に各方向の路線バス、コミバスが発車するような体制が必要かと考えている。

高浜町総合政策課

- ・まちづくりの観点からいうと、高浜町は4つの小浜線の駅があるが、若狭高浜駅を中心にコンパクトシティとして施設の適正配置を考えている。その他の地域はデマンドバス（赤ふんバス）を有機的につないで交流させるまちづくりを考えている。
- ・観光の方については、高浜町に8つの海水浴場があり、これまでは夏のアクティビティ層を中心に呼び込んできたが、アクティビティ層は公共交通と親和性のない層である。今後、漁港の再整備と合わせ商業施設を開業する予定であり、魚の加工品、浜焼きなど食に焦点を当てた層を狙っていく。公共交通でも引っ張ってこることができるコンテンツとして期待しており、公共交通と有機的に繋げていくことが必要である。
- ・赤ふんバスを増強させるという方法があるが、赤ふんバスを運行する事業者もマンパワーが少なく難しい状況にある。先ほどの広域法人の話も有効であろうかと思う。

おおい町総合政策課

- ・うみんぴあエリアを中心に交流人口を拡大する拠点整備を考えている。ストリートスポーツ広場の整備、スポーツ交流施設の整備、県外の人を呼び込む施設である。観光施設がまばらであったが、拠点をつくることで移動困難の課題を解消しようと考えている。
- ・若狭本郷駅からの交通手段を今後検討していくところであり、観光施設へ直接向かう際の公共交通手段が必要と考えている。
- ・敦賀開業についても、嶺南地域の観光地と協力して観光地周遊バスを検討してほしい。高速道路を活用した高速バスを運行し、各市町一つずつバス停を設置するなど、高速バスを利用した移動手段が実現されるとよいとも考えている。

若狭町総合戦略課

- ・観光と住民生活があり、住民生活の面では、若狭町は、資料説明にあったように、上

中と三方が合併した後もそれぞれ違う方面へ移動する形態となっている。住民生活の足としてコミバス、デマンドを運行しているが、採算性の問題があり、値上げ等の議論もある。

- ・観光は三方五湖を中心とする地区であり、敦賀開業は大チャンスであるが、レインボーラインについては、駅で降りても移動する公共交通の手立てがない。海外インバウンドが増えているが、公共交通を利用したインバウンドをどう案内して利用して頂くか知恵を絞っていく必要がある。敦賀開業にあわせて小浜線に観光列車などを走らせても良い。広域連携で、力を合わせてやっていければと考えている。

舞鶴市企画政策課

- ・舞鶴市には京都丹後鉄道の西舞鶴駅がある。平成 26 年度に網形成計画を策定し、平成 27 年度に上下分離方式で運行している。日本一の赤字路線で不名誉な状況であったが、天橋立、城崎温泉へ観光客が訪れ、舞鶴には赤レンガパーク、福知山城など観光スポットがあり、これらを京都丹後鉄道と、各市町のバスが結ぶという取り組みをしている。
- ・京都丹後鉄道の起点駅ではパターンダイヤ化を行い、西舞鶴駅は毎時 37 分発というようなダイヤを組んでいる。それに京都交通のバスも接続している。計画をつくり、内容が伴ってきたという状況にある。
- ・敦賀まで新幹線開業となると、天橋立、舞鶴、また各地の観光スポットがたくさんあるため、背骨として小浜線、毛細血管として各市町のバスが機能すると理想的である。地域住民も利用しやすいダイヤとできればよいと思う。資源はそろっているため、知恵を出し合って、よい計画づくりができればと考えている。

西日本旅客鉄道金沢支社

- ・協議会の中で地域や公共交通がどのような状況であるかをしっかり把握する必要がある。その上で小浜線を含めた地域交通や持続可能な公共交通を作っていくことに対し、鉄道事業者として協力させていただく。ただし、出来ること出来ないことがあるので、協議会において議論させていただく。
- ・地域交通の観点では通勤・通学利用者が減少しており、鉄道事業者として危惧している。どのように利用者を確認していくか協議会で考えていきたい。広域交通の視点では北陸新幹線敦賀開業が大きな目標となり、新幹線開業により小浜線のダイヤも変わる中、まずは現状の設備の中で何が出来るのか議論させていただきたい。
- ・公共交通網形成計画に取り組むにあたっては、地元の方がどれだけ危機感を持って取り組むことができるかがカギとなる。観光列車については、地元の方におもてなしをしていただくことが重要であり、相当な力をお借りする必要がある。そういった覚悟を持って協議会で検討を進めなければならないと考えている。
- ・繰り返しになるが、持続可能な公共交通を作っていくために、沿線自治体の皆様の力

をお借りしながら、鉄道事業者として努力していきたい。

大和交通

- ・敦賀開業後の広域交通として、補完的な位置づけとして嶺南地域のバス運行がその役割を担うのではないかと考える。ただ事業者の立場からすると、弊社は乗合事業として、路線バスや小浜市のコミバス、上中町のデマンドタクシーを運行させて頂いているが、『乗務員が集まらない・高齢化してきている』といった課題がある。特に乗合バス・タクシー事業については、将来的に乗務員がいなくて対応しきれなくなる時期がくるのではといった不安がつきまとっている。こうした状況は、殆どの運送事業者が抱えている問題であり、乗合バスでの二次交通という面で、本当に対応できるのか危惧しているのが今の状況である。

川本会長

- ・たいへん大事なご指摘であり、課題として共有する必要がある。

福井鉄道

- ・バスが抱える問題は大和交通の意見の通りであり、乗務員の確保は大きな課題である。年齢構成としても働き盛りの方が確保できない。ハローワークなどに頼んでも面接に来るのは50代中心であり、条件提示をすると他のトラック業界等になってしまう傾向がある。公共交通事業者として、貸切バス、高速バスの乗務員を路線バスに回して対処している状況である。会社として収益性が悪化しており、この傾向が数年つづいている。バス事業が成り立たなくなってしまう状況で、貸切バス、高速バスを事業としてやっていかないと成り立たない。
- ・インバウンドを当て込んだバス車内のW i f i化を今年度行うこととし、コンセントなども導入する。貸切バスのW i f i化も進めていきたい。
- ・路線バスについては国の補助、市町の補助で成り立っているが、弊社の経常収支率は低い。結果として沿線の県、市町の補助が増えるという状況となっている。広域路線を運行しているのが良いのか、コミバスを進めていった方が良いのかという議論があり、今後も考えていかなければならない課題である。乗務員の確保ができなくなると広域路線はやめるということになる。車両の整備費も上がっている。
- ・結果として経常費用は右肩上がり、収入は右肩下がりという状況である。収入を確保するため、観光利用のお客さまを引っ張ることが必要になるが、県外のお客さまは、東京並みの整備をしないと満足しない。車内放送、待合環境などに費用が必要となってくるが、バス路線では難しい状況にある。生産性向上が求められており、運行を効率化するに尽きるが、サービスの低下にも繋がってしまう。求められているものとの乖離を小さくしようとするが、なかなかうまくいかないという現状である。

川本会長

- ・大事な問題である。計画の中で共有しておかないといけない課題であると思う。

敦賀市

- ・この協議会の中で、提案など今後どのように検討されていくのか。

川本会長

- ・今日は第1回であり、この会議は3回ある。ワーキング等を行うなどの方法で密に意見交換しないと十分進まないと考えている。この会議とは別途、ご相談や実質的な検討の場が持たれることになる。また、調査で現状を知るということも大事であり、無い情報を集めるという作業も必要である。夏の間に適宜調査をしていく予定であり、調査をした後に次回の会議開催になろうかと思う。

事務局

- ・協議会は3回であるが、実際には、まずは現況調査の中で、市町に相談させていただく。ワーキングまたはミーティング等を行い、バス、鉄道など担当の方のご意見も頂くなどして、つめていきたいと考えている。情報共有もさせて頂きたいと考えている。

福井県

- ・今回は、コンサルタント（八千代エンジニアリング）には、辛めの説明をして頂くようお願いしており、率直に語っていただき、多岐な提案をいただいた。今日の意見は、一覧にして事務局でどうするかを検討したい。ただ、時間軸と成果の両方を考えて取組んでいくことが必要である。人材の育成などの課題もある。整理して、会長と相談させて頂きお諮りしていきたい。少子高齢化が課題となっており、交通事業者さまの方でもシニア層の活用ということがあるが、今できることとして、「人を公共交通利用に繋げること」を考えていくことが必要である。

中部運輸局計画課

- ・実態調査にとりかかって頂くところであるが、調査の概要は事前に検討されていることがあればお知らせいただければと思う。網計画作成に当たり、メニューとして「〇〇の検討」と記載する例があるが、可能な範囲で具体的にできる計画を立ててほしいと思う。

事務局

- ・現状調査について、資料から把握できることもあり、運行データ、お客さまのデータがあれば市町や事業者さまからの提供をお願いしたい。アンケート調査、利用客の乗降調査も行う。小浜線はキーとなるため綿密に調査したいと考えている。定期を持つ

ている方がほとんどとのことであるが、観光シーズンは状況が異なると考えられるため、別途調査することを考えている。調査のスケジュールは、夏休みと国体開催時期を考慮して調整することになる。調査に当たり、関係者の皆さまのご理解ご協力をお願いしたい。

会長

- ・それぞれの市町の方で観光のアンケート調査をやっていたり、公共交通の利用状況調査もされていると思う。嶺南地域を通して調査するので、市町が整合性のある整理ができるように工夫してほしい。これらは市町等と個別のところでも相談していければと思う。今回の計画は、ピンチをチャンスに変えていく機会になる。よいものを計画しても使われないと悲しいことになるので、地域で「意識の醸成」を図っていききたい。この点も、あわせて共有しながら柱として盛り込んでいって頂きたい。

(4) その他

4 閉 会